

コナガの防除対策



平成3年4月

東京都

このパンフレット及びコナガに関するご質問は

東京都病害虫防除所へ

〒190 東京都立川市富士見町3-8-1

TEL. 0425-25-8236

コナガの生態

成虫：静止した時、前ばねに菱形模様のある灰褐色の小蛾。

体長は約1 cm。

卵：淡黄褐色で長さ1 mm以内、数粒ずつ点々と産む。

幼虫：体長1～3.5mmくらいの若虫の間は灰褐色が多い。

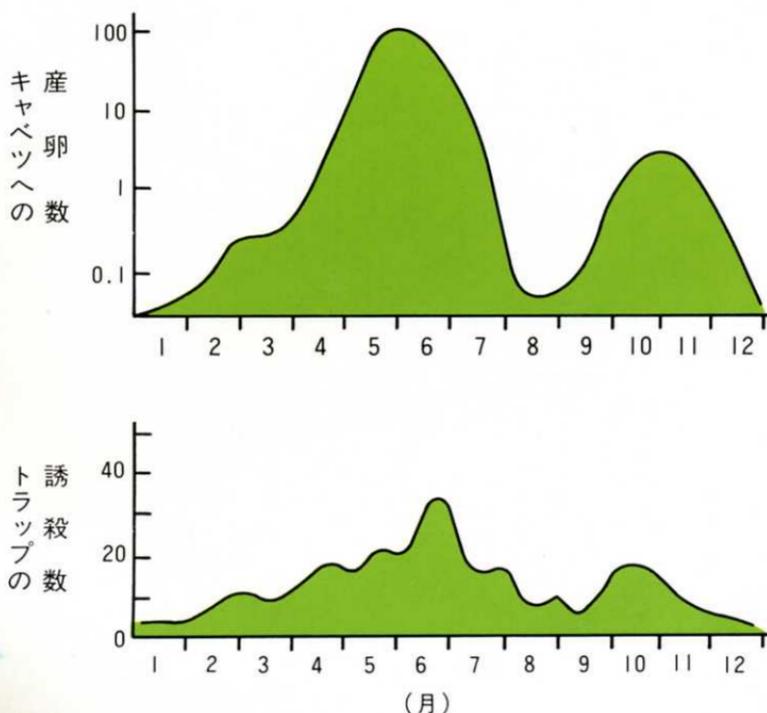
5 mm内外の老熟幼虫では、多くが緑色となる。

主として葉裏の葉肉部を食害し、表皮を食べ残す。

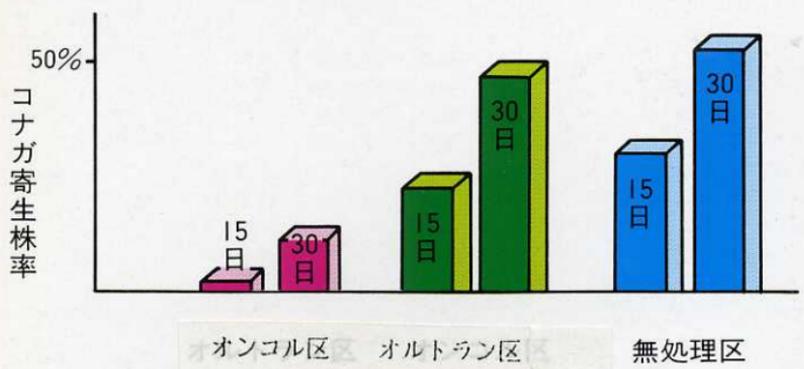
蛹：体色は緑色や褐色のものがあり、葉面に付着して薄いまゆの中にいる。

- 主にキャベツ、コマツナ、ブロッコリーなどあぶらな科野菜を加害する。
- このほかナズナ、イヌガラシなどにも寄生して生活環を維持する。
- 世代交替がはやく、関東では年間10～12世代の発生をくり返す。
- 休眠をせず、周年各態で生活する。
- 春から初夏にかけて密度が高まり、盛夏には激減するが、秋に再び密度が高まる。

コナガの発生消長

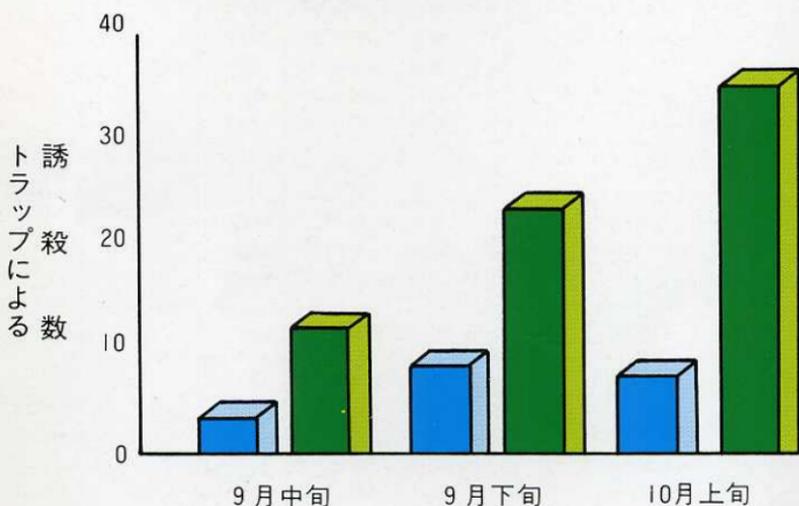


定植時における粒剤施用の効果



対象はキャベツ(平成2年秋)
日数は定植後日数

ローテーション散布の効果



対象はキャベツ(平成2年9月上旬定植)



ローテーション防除区



慣行防除区

慣行区：

2～3種の薬剤を混用し、同じ薬剤、同じ系統の薬剤を続けて使用。散布量は100ℓ/10a前後と少ない。

コンナガのキャベツの寄生数の比較

	農家 A		農家 B	
	慣行区	ローテーション区	慣行区	ローテーション区
幼虫寄生数	2.20	0	0.20	0
寄生株率	40.0	0	20.0	0

調査は定植後農家 A では40日後、B は60日後に行なった。ローテーション区は定植時に粒剤（オンコル）を施用した。

コナガコン使用上の注意

殺虫剤のみに依存しない防除法としてコナガコン（フェロモン製剤）が農薬登録された。コナガコンは、コナガが交尾する際にメスがオスを引き寄せるにおいて（フェロモン）を細い管（ディスペンサー）に入れたものである。

このためコナガコンには殺虫作用はないが、畑じゅうにフェロモンを充満させることにより交尾を阻害して産卵数を減し、幼虫の発生をおさえる効果がある。

従って、これらの特徴を理解したうえで、以下の点に注意して使用しないと十分な効果は得られない。

- (1) コナガコンの使用は、定植と同時にディスペンサーを畑に設置する。
- (2) 定植時には、薬剤散布等により、本畑に苗に寄生したコナガを持ち込まないように注意する。
- (3) 広い面積で使用するほど効果は安定する。なるべく広い面積で同時に使用する。広面積の一部だけに使用しても効果はない。
- (4) 強い傾斜地では、フェロモンが下部に流出し、また常に強い風が吹く圃場でもフェロモンが流出し、全体に交信攪乱に必要なフェロモン濃度が得られない場合がある。
- (5) ビニールハウス等の施設内で用いる時は、天井部に設置する方が効果が高い。
- (6) コナガコン架設畑では、コナガの発生量に注意し、密度が高くなった場合には薬剤等で密度を下げる。

コナガコン設置風景



防除上のポイント

- 苗圃の防除を徹底的に！ 本畑へは一匹も持ち込まない。
- 定植時に土壌施用粒剤を！
- 防除は小さい(若虫)うちに！ 緑色(老熟幼虫)になってからでは遅い。
- 薬剤は葉裏までたっぷりかける。
(生育初期 100～150 ℓ / 10a)
(生育期～結球期 200 ℓ / 10a)
- 薬剤抵抗性* に注意！ 効果の低下した薬剤は使用しない。
- 薬剤散布はローテーションで！ 同じ薬剤、同じ系統の薬剤を連用しない。
- 発生実態に見合った薬剤防除を！ ムダな薬剤混用はしない。
- 収穫後の残さ処理は確実に！

※薬剤抵抗性：同じ薬剤を使用しているうちに害虫がその薬剤に強くなること。一度抵抗性がつくと、なかなかもとにもどらない。
特にコナガは有機リン剤、合成ピレスロイド剤の抵抗性がつきやすく、一つの薬剤に抵抗性がつくと、同じ系統の薬剤全体の効果が低下する。

ローテーション散布体系例 (キャベツ)

